



第92号 令和6年1月
編集発行 庄内教育事務所 指導課
〒997-1301
東田川郡三川町大字横山字袖東7番1号
TEL0235-68-1982/FAX0235-66-3015

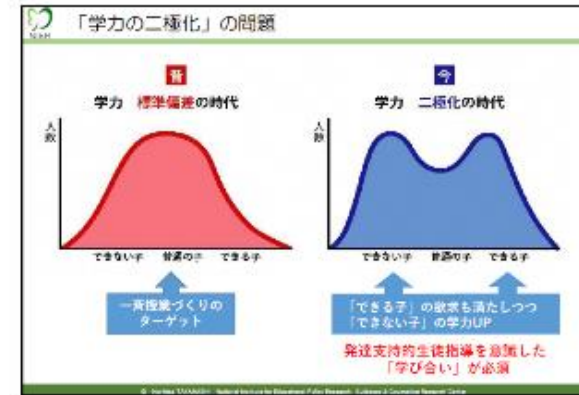
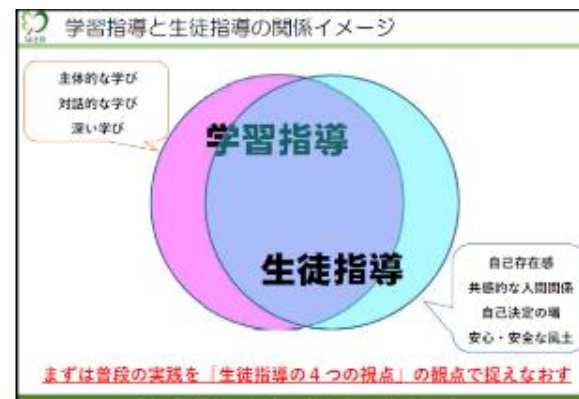
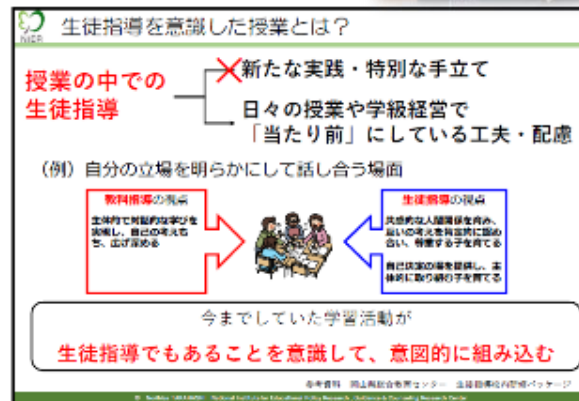
生徒指導提要の改訂の視点を生かした授業づくり

10月3日(火)に庄内地区学力向上研究協議会が庄内総合支庁講堂で行われました。今回は国立教育政策研究所 総括研究官 高橋典久氏から「生徒指導提要の改訂の視点を生かした授業づくり」というテーマで御講話をいただきました。



高橋先生からは、生徒指導提要の改訂のポイントを説明いただくと共に、子どもたちの「生きる力」を育むために、学習指導と生徒指導の一体化を図ることについてお話をいただきました。

また、「Z世代の子どもたちの特徴」や「学力二極化問題の視点」からも発達支持的生徒指導を意識した学び合いが必要であることも教えていただき、参加した先生方から様々な学びの感想が寄せられました。今後の授業づくりに向けて充実した研究会となりました。



「今、求められている教育」

～9月4日(月) 全県指導主事等研究協議会 高木 展郎 先生の御講演より～

横浜国立大学名誉教授の高木展郎先生から、上記の演題での御講演をお聞きしました。一人あたりのGDPの推移や世界競争ランキングから見える「日本における状況の変化」から、「学校教育の転換の方向性」についてお話いただきました。御講演の中では、「カリキュラム・マネジメントの内容」についても説明がありました。各学校においてカリキュラム・マネジメントを進めていく上でも参考になる内容だと感じましたので、紹介させていただきます。

カリキュラム・マネジメントの内容

- ①「何ができるようになるか」
→育成を目指す資質・能力
- ②「何を学ぶか」
→教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成
- ③「どのように学ぶか」
→各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実
- ④「子供一人一人の発達をどのように支援するか」
→子供の発達を踏まえた指導
- ⑤「何が身に付いたか」
→学習評価の充実
- ⑥「実施するために何が必要か」
→学習指導要領の理念を実現するために必要な方策



計画指導訪問校に学ぶ Vol.2

【三川町立横山小学校】(校長 大塚 優) 9月13日訪問
学校教育目標=いのち輝き、たくましく生きぬく心豊かな子どもの育成

- (1)「みんなで考える学校」を経営理念に掲げ、目指す子ども像を3つの資質・能力の観点で分析したグランドデザインを全職員で共有・具現化し、全職員の協議を大事にした取組を進めている。
- (2)児童の思いや工夫を生かす取組の一つとして、学校 youtube チャンネルを開設し、動画作成に児童が関わることで、児童の主体性と自己肯定感の伸長を目指すとともに、教育活動の可視化を図り、地域との連携を進めている。
- (3)グランドデザインの協議により設定した「つきたい力」の具現化を授業で目指すために、下支えする力とその手立てを研究授業にて提案するなど、一体的かつ活力ある実践を行っている。

【鶴岡市立あさひ小学校】(校長 佐藤 英与) 9月25日訪問
学校教育目標=あかるく さわやかで ひたむきな あさひっ子

- (1)「生徒指導の三機能」の考え方を重要視し、「正しく判断 かしこく行動」できるあさひっ子の育成につないでいる。
- (2)「手引き」を提示したり「ポイント」を表示したりするなど、「対話」を活性化させるための学年に応じた手立てを講じ、「対話を通して、より深い学びへとつなぐ」ことを意識している。
- (3)学校運営協議会と地域学校協働本部との連携協働による「地域とともにある学校づくり・学校を核とした地域づくり」を推進している。

参加者アンケートより

- ・学習指導と生徒指導とを一体化させながら、一人ひとりの学びを支え、学力向上を図るようにしていきたい。
- ・子どもたちの「生きる力」を育むために、学校でできることは何かという目的を見失わずに、授業の中で意識して生徒指導をしていきたい。
- ・「生徒指導の4つの視点を取り入れた授業づくり」とよく言われるが、実際どのような場面でどのように行うのかわかることができた。生徒指導の観点から主体性を育み、その教科が好きという生徒を育みたい。
- ・授業改善も不登校対策も学校の魅力を高めていかなければならない点で共通しており、今後ますます「生きる力」をつけるために、学校として運営を考えていく必要があると思った。

